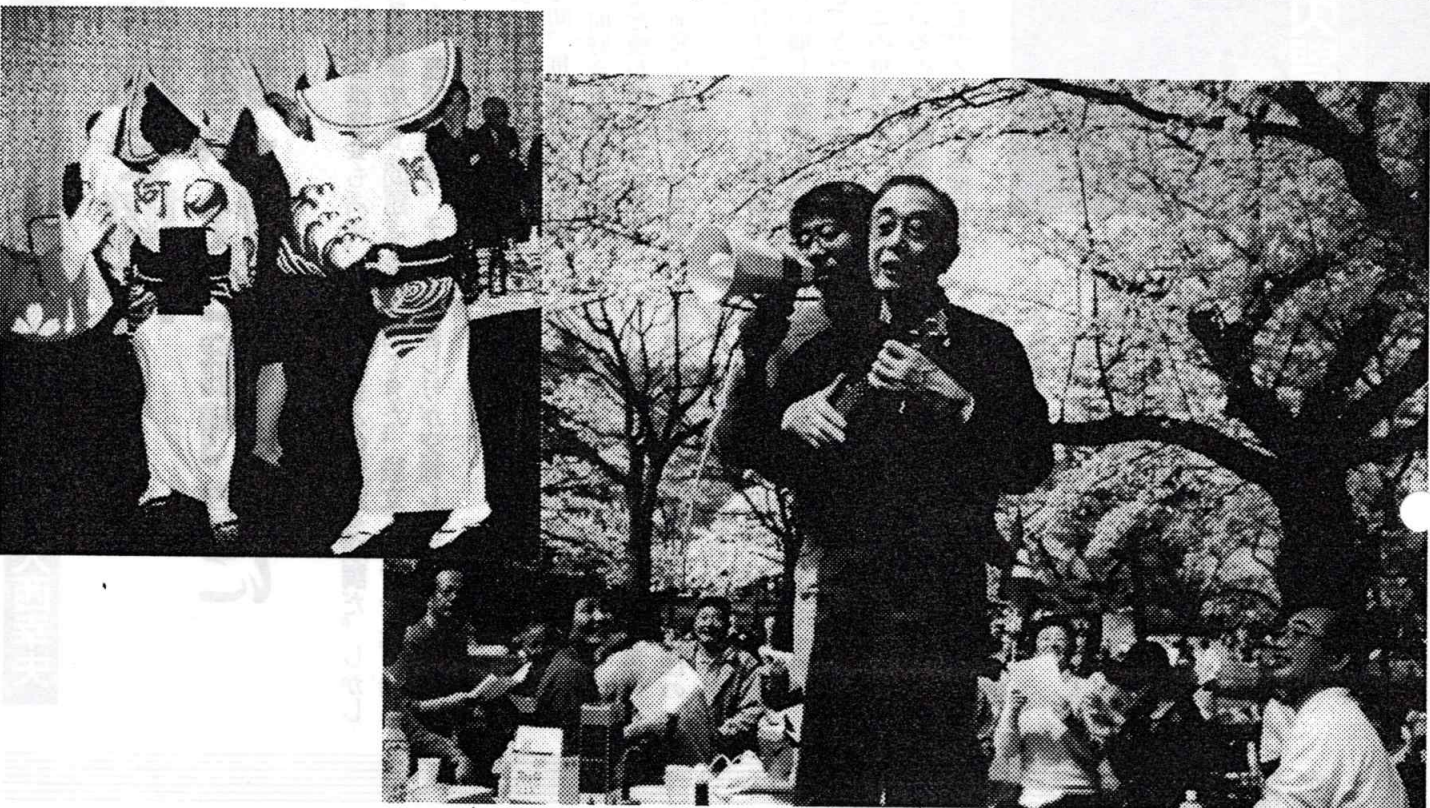




「花酒爺さん」の独り言

それはあやゆい、何か起こりそうな予感のする朝だった。ボンヤリ頭で、ハテ、今日は何かあったつけ。そうだな、先日、そんな知らせが稲門会から来ていたのを思い出した。面白そうだな、ちょっと顔を出してみるか。フランチもそこそこ、家内に平静を装って「出かけてくる」と声をかける。「おや、どちらへ」、小生「お花見だ」「どちらの?」、稲門会の花見」とぶつきたらうに答える。「あなた、お花見は危ないから、私が見張りについて行きますよ」といった訳で、家内連れで出かけた。会場は多摩湖のダムのおもと、見事な桜の「桃源郷」だ。W旗の下、すでに顔を赤くした面々で大賑わい。持ち寄ったお酒もマチマチだが、その量の多いこと。それにカミさん連中差し入れの手作りの肴が旨い。車座の中、ウクレレおじさんの素敵な手さばき。それに合わせハンドマイクを片手に浮かれ歌う者。それを見上げるみんなの暖かい眼、イヤ実はヨウやるよ、といったあきれた顔。お花見はいやがうえにも盛り上がり、奇つ怪な行動が目立ち始めた頃が潮時。これ以上やるとお巡りさんがやって来る。「お聞き!」と幹事が叫ぶ。百花爛漫歌舞音曲、酔人続出、はては記憶喪失まで、イヤハヤ大変な一日でした。こんな楽しい花見を今年もやるそうです。今度は一人で行くぞ、家内には内緒で。そういえば、昨年の総会パーティーも忘れられない。大学の応援団もよかつた、まるで青春の置き土産をもらったような感激、それに余興の阿波踊りやモダンダンスも「水割り」の味を深めてくれた。

目次



「花酒爺さん」の独り言……………	会 員	1
会長挨拶……………	会長 大西幸夫	2
幹事長所感……………	幹事長 木谷 肇	2
記念講演 早大人間科学部教授	菅野 純	3
総会アラカルト……………	スタッフ	3・5
ついでに 早大前学生部事務部長	小亀輝雄	4
コラム「早稲田の21世紀」		
……早大教務部事務部長	上 幸子	4
早稲田ニュース・大学通信……	事務局	4
校友会の現状を見る……	副会長 三宅良太	5
寄稿「光陰」……………	松永常尚	5
コラム「サッカーと靴」……………	長井 治	5
同好会のお知らせ……………	各世話人	6・7
総会懇親パーティ……………	伊藤友巳	6・7
ショート・SHORT 番場吉次・村山政利	高木舞	8
事務局からのお知らせ……………	事務局	8
奇観放言・編集後記……………	スタッフ	8

若手の参加を期待、 開かれた稲門会に

同好会活動や例会講演会も活発、近隣稲門会との交流も順調だ。しかしより多くの会員の参加など問題点も浮き出てきた。設立三年、会長が語る言葉の行間にも、喜びと期待、そして歯きしりが交錯して滲む。

東村山稲門会は設立後二年が経過しましたが、その間、毎奇数月実施の講演会が定着し、同好会も園芸同好会、テニス同好会など数が増えたと共に、その内容も益々活発化し充実してまいりました。

これは毎月発行する東村山稲門会ニュースでそれらの催しの案内や実施結果をお知らせしてきた努力のたわものでありますが、この毎月のニュース発行を可能としているのは、編集担当のお骨折と、それをポストマン制度によ

り費用負担なしで会員の皆様方にお配りしている、役員はじめ有志会員の奉仕のおかげと感謝致して居ります。

昨年世情は、不景気の風が吹き荒れ、高級官僚や大企業幹部の汚職・背任のニュースや毒薬混入事件の流行、中学校での『いじめ問題』や殺傷事件と暗い話ばかりで、心理的のも不景気を助長する傾向にありました。

こんな時であるからこそ、せめて仕事から開放され地元に戻った一時を、親しい友と語り合い、処世術を教え合うなど、稲門会がその存在価値を発揮されると思います。

三年目に入った今年は、卒業後間もない若い人達を重点に声をかけるなどして、昨年にも増して友好の輪を拡げてゆくとともに、発足当初からの会の目的の一つでありながら実行できなかった地元東村山市の文化向上に寄与する活動の一環として、定例講演会を一般市民に公開、開かれた稲門会を志向してゆきたいと考えております。

未だ見知らぬあなたへ

幹事長 木谷 肇



当稲門会も3年目に入り会員数も二〇〇余名体制になり、各種同好会の活発化、文化講演会の実施等、着実に進展しつつあるのはご同慶の至りです。

小生もこの一年は東京都選出の代議員として校友会本部の方々との接触もあり、

東村山の名をPRした次第ですが、そこで感じたのは大学当局の積極性です。巷間云われる三田慶応に比して早稲田人は組織化が下手という批評は、おそまきながら解消の方向に向かっていると思われまます。今、日本の各地いや世界のあちこちで、稲門会設立及び交流の動きが加速されています。(校友会学報参照)

そこで地元東村山の諸兄にお願いです。折角縁あって東村山にお住まいのあなた、一度当会に足を向けてはいかがが？お知り合いになろうではありませんか！人生は未だ先長いのです。生きているうちに楽しい仲間を増やし、あなたの歴史に温かい一頁を加えてみませんか！正にここに来て早稲田魂の発揮です。

当会は未だ若い組織ですが、多士済々です。貴兄の出番は一杯あります。云いたいことを云い合いましょう。それが東村山の文化向上の一助となるはずで

そこで二の足を踏んでいる貴君「あなた」ですよ。来たれ集へ早稲田人、ご家族も大歓迎です。私も中味の充実を心がけ協力いたします。

■1997年度 会計報告■ (1997.10.1~1998.9.30)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
前年度からの繰越金	246,364	会場費 (総会、月例会)	46,550
年会費 @3,500×180人	630,000	講師謝礼	38,500
年会費 (次年度前払い) @3,500×3人	10,500	事務通信費	119,100
総会懇親会費 @6,500×51人	331,500	会報・ニュース等制作費	195,246
シ (同伴者) @2,000×6人	12,000	(会報・ニュース・総会案内状の印刷代 他)	
総会祝金	25,000	事務用品費	41,407
組織強化補助費	150,000	(会名人封筒・住所ラベル他)	
(大学からの活動助成金)		他会への参加費	70,000
寄付・通帳利子 等	34,424	大学125周年募金への寄付	30,000
		総会懇親会パーティ費 (97.11.15)	367,605
		同好会補助費 (@10000×7同好会)	70,000
		花見大会補助金 (98.4.4)	2,342
		その他雑費	82,665
		(総会用ワゴン車使用料、写真代、花輪・生花代、祝・弔電代、振込手数料 他)	
		次年度への繰越金	376,373
合 計	1,439,788	合 計	1,439,788

いま、親であること現代の子どもと大人の役割

「心のエネルギーを与える大切さ」

早稲田大学教授 菅野 純

NHKで春頃放映された番組の中に「学級崩壊」ということを扱ったものがありました。この問題は特殊な事ではなく、学年崩壊、学校崩壊の危惧すらあります。

原因のひとつには、今の子ども達が成長の課程で節目が得られず小学生になっても、ただ教室や先生がかわっただけという感じで小学生になっただけという感覚がもてないでいることです。これは中学生にも言えることで、学校行事の見直しと同時に地域

としても子ども達が小学生や中学生になったという意識をもたせる行事を考える必要があるのではないかと思います。

二つ目に考えられることは、二者関係が確立されていないことにあります。一番大きいのは母親との関係です。この二者関係が確立されていない子が学校に入ってくると、集団的な指示が分からない場合が多く、また3人関係もうまくいかず不登校になる場合もあります。

こういう状況の中でいま親として大人として子ども達に何を心がけて働きかけたいかについてお話ししたいと思います。その前に働きかけようと思うと何を考えているか分からないという反応に出会うという問題があります。注意してもケロッとしている子ヘラヘラしている子、たんだんとしていて無表情な子もいますが、彼らがそうならざるを得ない何かがあるのだろうという視点で人の行動を見る必要があります。子どもが発する言葉にならない言葉に耳を貸すことが大切です。

す。子どもにギリギリ言葉で言わせないで子どもの心を理解することが大切です。日本の文化も貧しくなっているような気がします。

大切なことは心のエネルギーを一杯あたえることです。私達は家庭で職場で互いに元気がでるような言葉をどれだけ掛け合っているでしょうか、逆にエネルギーを吸い取るような言葉を言っていることはないでしょうか？子どもの心の原動力になるような言葉を一杯与えることが必要です。

独りぼっちになっても心の中に家族や友人たちとの繋がりが感じられれば孤独ではないのです。

いろいろな人の力を感じられる人に育つために手間ひまかけてするのが育児だと思っています。



総会の朝、昨夜までの天候がウソのように晴れた。会場に来賓の皆様も続々到着。多忙の中、細瀬市長も挨拶に見えて、稲門会の存在を心強く思い活動を大いに期待したいとの言葉を頂く。大学校友会からは理事の村山治氏、総長室から野地整氏が出席、大学当局の動きや全国の校友会の活動について紹介があった。近隣からは小平稲門会の岡田憲樹会長、立川の鷺海量良、東久留米の〇〇〇副会長のご参加を頂き小平の岡田会長より小平稲門会の活動の現況や、当会への励ましの言葉を拝聴した。今回の記念講演は早稲田大学教授の大西太郎氏にお願いした。大西教授は「子供のしつけ」や「家庭教育」についての第一人者。著書も多く、また語りのうまさ定評のあるところ。身振、手振りの熱演に押しかけた市民の中にはうなづいたり、熱心にメモを取る人が目立ち、社会が抱える病根の広さを垣間見る思いがした。

東村山稲門会役員

会長	大西 幸夫	(昭和30年理工)
副会長	久世 利夫	(昭和22年政経)
	三宅 良太	(昭和36年商)
幹事長	木谷 肇	(昭和42年商)
幹事	井垣 和太	(昭和37年商)
	☆伊東 友己	(昭和51年政経)
	井原 徹	(昭和44年法)
	上 幸雄	(昭和47年教育)
	江藤 昌明	(昭和27年政経)
	久保 栄二	(昭和46年法)
	☆小亀 輝雄	(昭和34年商)
	☆田口 政澄	(昭和36年理工)
	土橋 雄次	(昭和35年理工)
	当岡 昭治	(昭和43年法)
	長井 治	(昭和29年法)
	☆町田 和夫	(昭和53年理工)
	山下 邦康	(昭和36年教育)
会計	☆高柳 剛	(平成3年社学)
	崎山 裕子	(昭和52年教育)
会計監査	塩見 之一	(昭和25年専工)
	岡原 裕泰	(昭和39年文)
事務局	事務局長 小亀 輝雄	
	☆印 事務局員	

インタビュー 早稲田大学前学生部業務部長 小亀輝雄

四十年の歳月に映った

「わたし」と「ワセダ」

深夜、自宅に緊急連絡が入る。又、学生が交番で暴れているとのこと。事情を聞き、もらい下げのために家を出る。寒さが身にしみる。これは大学在職中の「コマ」である。

— 早稲田を退職なさったそうでハイ、昨年の十一月末でやめました。職員は六十五年ですが、部長職は六十二才まで。これを機に選択定年

をとったわけですが

— 経理が長かったと伺っていますがええ、二十年いました。それから人事部の厚生課長と人事課長をそれぞれ四年つとめました。

— そのあとは

その後、大学と三菱商事の共同出資でキャンパスという会社が出来て営業部長として出向したわけですが

— どんなお仕事でしたか

大学周辺の業務でして大学を少しで



もスリム化しようという狙いでした。

— うまくいきましたか

いや、金儲けの厳しさをつくづく味わいましたね、仲々思い通りには行かず苦労しました。でも、この会社設立以来ずっと黒字なんです。設立に携わった私としては嬉しいですね。

— その後、大学に戻られたのですか

ハイ、学生部の事務部長としてです。

— 学生部長の仕事は大変でしょうそう、気苦労だけでなく、肉体的にも骨の折れる仕事ですね。早稲田祭や新学生会館建設問題などその取組は骨身を削る思いでした。

— 早稲田は今も革マル活発だからそうなんです、何も知らず入ってきた新人生への影響が大きいんですね。また早慶戦の夜も大変でした。勝っても、負けても酔っ払い学生がお店

や他のお客さんに迷惑をかけていないか、喧嘩騒ぎを起こしていないか、心配なんです。街中、見回ってね。— 大学もずいぶん変わったでしょうええ、この40年の歳月の間、大きく変わりました。でも建学の精神だけは失ってほしくないですね。— これからはどうされますか

早稲田の応援団として、稲門会活動を通して大学を見守っていきますよ。

— 稲門会への何か注文がありますかそうですね、単なる懇親会ではなく稲門会がたとえ一人の学生にでも奨学金を支給できるようにするものが私の夢です。

— ありがとうございます。

WASEDA NEWS

■会津八一記念博物館会館

昨年5月、会津八一記念博物館が開館した。先生が収集された貴重な美術品や篤志家の寄贈による資料などが展示されている。改装のため3月は休館、4月に改めて開館する

■奥島総長再選さる

昨年6月16日、「総長決定選挙」が行われ、奥島現総長が再選された。任期は4年

■昨年9月、新14号館全館オープン

マルチメディアを活用した新授業や多様な教育の実現を可能にする設計が施され、21世紀に向かって飛躍する足掛かりとなるよう期待されている。

■新学部長、昨年9月1日付けで決まる

政経 堀口健治教授 法 田山輝明教授
一文 吉田順一教授 二文 中島国彦教授
教育 津本信博教授 商 大塚宗春教授
理工 宇佐見昭次教授 社学 那須政玄教授
人科 加藤清忠教授

社会科学部、昼夜開講学部へ移行

昨年10月、文部省の認可を得て「夜間学部」から昼夜開講学部に移行した。未来志向型の学部としてますます期待されている。

■司法試験・公認会計士合格状況

司法試験	公認会計士
東大 213	慶大 119
早大 117	早大 97
慶大 91	中央 34
京大 73	東大 29
中央 68	明治 28

20世紀も残すところあと2年となり「21世紀の…」を現実のものにしなければならなりません。大学でも「21世紀の早稲田大学」をさまざまなに描いてきましたが、ようやく絵にかいた餅が膨らみつつあります。

奥島総長がアジア太平洋を改革のキーワードにあげ、98年に大学院アジア太平洋研究科が発足しました。初年度に定員の1.8倍も入学者を迎え、21世紀早稲田への最初の「餅」になりました。

絵に書いた「餅」が実現

早大教務部事務部長 上 幸子



その苦しみを感じていましたが、それを越えた今、各学部で次々に新しい計画が準備されています。政経

学部は国際関係と社会情報の2学科新設を検討中で、大学院強化のため法、商、理工では学部と大学院修士一貫教育を計画しています。また、従来の一般教育や外国語の教員が新しい教養教育を議論しており10番目の学部が生まれるかもしれません。

地球環境や健康福祉分野の研究グループも形成されています。

早稲田低迷をいわれOBの皆様にこそ心配をおかけしましたが、残る2年間で21世紀のグラウンドデザインを描き上げ、125周年の2007年までに大学

大学通信

九八年度末および

九九年度大学歴決まる

春季休業	二月七日～三月三十一日
学部・専門学校卒業式	三月二十五日
大学院学位授与式	三月二十五日
入学式	学部 四月一日
	大学院 四月二日
前期授業	学部 四月三日
	大学院 四月三日
夏季休業	七月二十日～九月十五日
後期授業開始	九月十六日
創立記念日	十月二日
冬季休業	十二月十八日～一月七日

光

陰

松永 常尚

した貴重な思い出かも知れない。卒業時、難問の一つである国際法（一又教授）の試験問題は「米

国第七艦隊の台湾沖封鎖について国際法上の見地から論述せよ」と当時の世界情勢の一端を覗き知ることが出来る。卒業後のパーティ

での法学部長の「早稲田の真骨頂は反骨精神にある。実社会に入ったら何でも反対せよ」とこの一言が己の人生にどのように影響したのかはもう今は、結果が出てしまっている。しかし



総会 アラカルト

総会当日、受付に陣取った江藤先輩、崎山嬢。ほろろが笑顔の迎えに来場の会員も思わずニコニコ。そう云えば江藤さん、かつて軟式庭球では選手代表の腕前、その豪球を月例会でも遺憾なく発揮、今では稲門会の彦左衛門。崎山さんは昨年秋に早稲田大学就職課長に就任された。時節柄大変でしょう。が挨拶で必ず返ってくる言葉らしい。いえいえ、美女をこのポストに就けたのは思慮遠謀の計り、企業の人事担当者もこれにはマイッタ マイッタ。

昭和二十年代後半当時の社会世相とからみ、一学生の生活模索の一コマを回顧してみたい。昭和二十五年六月から始まった朝鮮戦争のお陰で、日本経済は特需景気を謳歌し、急激な復興をなし遂げた。当時の学生運動は憲法問題や沖縄返還（S27・4自治体琉球政府が復活するも、施政権の範囲に制限あり）等問題にはことかかなかった。

小生もこの特需の恩恵を受け学生生活を送ることができた。立川駐留米軍基地でのバイトが一番金になった。クラブボーイやチャンジマネー（1\$／

360円）などだ。そのうちAPに見つかり沖縄のモンキィハウス送りと驚かされたが、幸い早稲田先輩のバンドマネージャーの尽力で九死に一生ことなきをえた。

又、ラブレターの代書もやった。朝鮮で戦っている米軍人に、日本の彼女（通称オンリー）の切ない思いをつづるのである。やっと生活資金を稼いでいよいよ本来の大学勉強にはいるのだが、何せ三四年分の単位を一年半位で取るのだから大変に苦労した。しかしこれが己の人生で只一つ勉強に熱中

稲田の卒業生であることを今も誇りに思っている。

交流会の現状を見る

副会長 三宅良太

東村山稲門会は三年前に設立、正式に大学本部に登録されました。ここで校友会の現状を見ますと昨年十二月十四日現在で、支部地域稲門会（北海道連合会、東村山稲門会等）が北海道から沖縄まで三六六、職域稲門会（鹿児島建設稲門会、兵庫県庁稲門会等）が二八〇、その

他有志稲門会（国会稲門会、第一東京弁護士稲門会等）が七一、海外（ジョージア稲門会、パリ稲門会等）が三八計七五五の稲門会が設立登録されており、す。東京だけでも区部に十九、都下に二三が登録されており、当稲門会にも近隣の小平、立川、他地域稲門会より総会等催しの

折来賓としてご案内があり、役員幹事が手分けして、極力出席するようにしております。多摩地域に於いては三多摩稲門会連合会が結成されており大学本部、各市稲門会との懇親策が目的とされております。

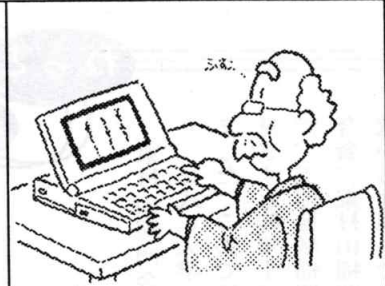
当稲門会も三年目に入りましてので、これを機に想いをふくらませて全国の各種稲門会と交流することを考えてみては如何でしょうか。会員有志の方々からのアイデアを募り、ご相談致しましょう。

「サッカーと靴」

長井 治

世界のサッカー界は大別して南米スタイルと欧州スタイルに分けられる。華麗な足技で狭い範囲をめまぐるしくシュートパスを行う守備陣をすりぬけシュートに持ちこむ南米スタイルと長い距離にロングキックを縦横に多用し、相手を右往左往させ守備陣形を乱してシュートする欧州スタイルです。なぜこの二つが統一されず別々に存在しているのでしょうか。それは両地方共、幼少年齢からサッカーに慣れ親しんでいる子供達の、常に靴を履いている欧州側と裸足で球を蹴っている

南米側との違いにある。それらがそれぞれ成長して造ったのが現在のスタイルです。裸足ではサイドキックやヒールキックは問題ないが、特にロングキックは地球を蹴飛ばし指を痛める危険性があり、自然に狭い範囲での球扱いが主流となる。一方、靴を履けば遠くへ飛ばすことがたやすく、グラウンドを広く使うロングパスが多う用されてこれがサッカーの主流となりました。日本では体格面では南米、靴の面では欧州です。さて、どうするの



世話人

郷土史の会

初年度は主に東村山の歴史の概要、郷土史の勉強の仕方等を講演会形式で学び、二年目は会員有志により収集した参考資料をもとに討論会形式で勉強いたしました。今年度はアウトドアで市内近郊の例えば狭山三十三観音霊場めぐり等を企画し、いにしえの人々の足跡を辿ってみてはと考えております。会員の皆様からも今後勉強したいテーマ、進め方等どしどし意見を出して頂ければと期待しています。お気軽にご参加下さい。

会員数30名 平均出席者数20名 開催：年45回

世話人
三宅 良太
394-5298

園芸の会

当会は一回目は、藤澤博恭氏（昭29政経）から主に関東洋蘭等のお話を伺い、二回目は都立神代公園へ桜草を観る会を催しました。展示された各種の可憐な桜草を観賞の後、園内を散策しました。三回目はこの春先に企画し、毎月のニュースでご案内いたす予定です。ご希望の内容等ありましたら、お申し出下さい。ご参考「上農は草を見ずして草をとり、中農は草を見て草をとり、下農は草を見て草をとらず」

会員数20名 平均出席者数15名 開催：年2～3回

世話人
三宅 良太
394-5298

ウォーキング同好会

ウォーキングを通して、緑地・史跡・知られていないナイススポットなどを探索し、街を再発見しています。

日頃の運動不足の解消もかねて、実際に気軽な気分市内を歩いています。ウォーキング終了後、居酒屋などでの親睦会（冷たいビールなど）もあります。

まだ面識のない会員の方々にも、お気軽に、ご参加いただき会員相互の交流、健康の維持につながれば幸いです。

会員数30名 一回あたりの参加約20名 年3回開催



世話人
町田 和夫
393-2438

みなさんやっていますか！



二年間司会の大役を努められた久保先輩から、成り行き任せにバトンを受け、緊張一杯に臨んだ懇親会。司会者が謂わば舞台の裾から覗き見た風景の一端をご紹介します。

三回目ともなり、大分くつろいだ雰囲気に見える会場風景。若い応援部からは辛辣な批評を受けたがどうしてどうして、驚くほど豊かな身のこなしの舞踊。ご祝辞を戴く方々の息づかい。

だが、懇親会の花形はやはり校歌の合唱だ。

応援部登場。

歓談の場で「あれっ！先輩ここで何してるんですか」と冷やかされていた東村山稲門会話題のニューフェイス応援団OGの高木さんも飛び入り参加。前に並んだ途端に高木さんの背筋がスツと伸びる。習性とは恐ろしい物だ。



絵画同好会

絵画部は東村山稲門会発足当時、水墨画は宮さん、水彩画は長井さんと吉本さん、油彩画は番場さんと塩見さんが主力となって活動を始め、初代会長は大西稲門会長と相談の上、宮さんをお願いして約2年が経過した。平成11年1月以降、宮さんの後を受けて水彩画の長井さんが会長に就任、水彩画の普及に尽力されることとなった。入会希望の方は長井会長（393-0795）までご連絡下さい。登録会員10名。指導陣上記5名・スケッチ会は春・秋随時。展覧会未定。



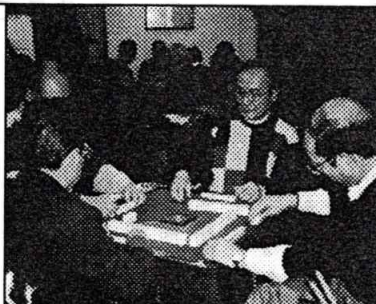
世話人

ああ ああ
11151111



麻雀同好会

当同好会も昨年12月の大会で第8回目を迎えました。メンバーは多士多才で、コソコソと役が小さくても上がる人、鷹揚な人、一発千金を夢みる人、ダメだダメだと言いながら上がる人、無言で勝負を掛けて来る人、いつも笑顔でゲームを楽しむ人達ですが皆、明るく陽気なので、地獄にいても雰囲気は極楽浄土。暮れの大会は初めて4名のご婦人の参加があり賑やかでした。大会後の懇親会も楽しく色々な話が飛び交い、時の経つのも忘れる位。次回は2月。会員数 名。一回あたり参加 名。年4回開催。



世話人

小野 智
39159523

お知らせ

ゴルフ同好会

他人より自分が本当は上手いと思っている人……全員そうです。今日はなぜかゴルフの調子が悪いと言う人……殆ど全員です。プレー後何処かでの麻雀を楽しみにしている人……2卓はいます。仕事をせずにゴルフで飯を食っている人……いません。東村山稲門会＝ゴルフ同好会と思っている人……いるんですよ。楽しいから毎回幹事をやってくれる人……いませんよね。こんな仲間のゴルフ同好会です。チョット寄っていきませんか？ 会員数36名・コンペ参加者4組～5組・春秋2回＋随時（井垣記）



世話人

井垣 和太
39653100

テニス同好会

「テニス楽しかったね」「うん、皆さんかなり個性的？なテニスをなさるから、若い人も、上手な人も、初心者も、どなたが参加しても、すぐ受け入れられるね」平成10年最後のテニスは、当間氏のお世話で、12月9日（土）長井治氏、三宅（良）氏、江藤（昌）、山下（邦）、当間（昭）、市川（彰）の4夫妻計10名参加。次回は1月30日（土）、所沢あさひ銀行テニスコート。10時より。プレイの後の懇親会も愉快なひとときです。（市川記） 会員数 名 一回あたり参加 名 毎月一回



世話人

当間 昭治
39156023

応援部の歌唱指導が進む内に、まるでビンゴゲームの最初のリーチを待つ一瞬の様に、舞台を前にした諸先輩の輪が詰まる。「校歌を歌うために来たんだ」と言われた先輩の声に耳に残った。世代を越えて共有出来る一つの歌声を持てると言うことは、多分すごく贅沢な事に違いない。都の西北が会場一杯に響き渡り、スクラムが揺れる。エールによって昂められた想いが宴の最後の時を前に余韻を染しむかの様に弛んでいくのがわかる。逸る司会者を久保先輩の手が止める。「まだまだ」そして閉会。「やったね！」思わず握手。妙な脱力感「伝統とは重い物です。お疲れ様でした。また来年お会いしましょう。」



伝言板

●月例会へご参加ください

毎月、第一土曜日に一五時から市民センターなどで開催しています。正確な場所はそのつど「稲門会ニュース」でお知らせします。

■奇数月には例会講演会を開催

月例会の「催し」の一つとして奇数月には色々な分野の専門家を招き講演会を行っています。

■「稲門会ニュース」にご寄稿を

毎月発行の「稲門会ニュース」に皆様の原稿をお寄せ下さい。随筆、俳句、短歌、その他、稲門会への要望など何でも結構です。

■会員募集と会費納入のお願い

お知らせいまだ未加入の校友

がお知らせしましたら、是非入会をお勧め下さい。又会員の方で年会費三五〇〇円を未納の方は左記までお振り込み下さい。

郵便口座名義「東村山稲門会」

口座番号 00160-0-112250

■慶弔電報

会則により慶弔電報をお送りします。該当の方、詳細は事務局迄。

■新入会員のお知らせ

青柳 真一	S39	理工
北原 照男	S25	商
重原 和彦	H2	政経
高木 舞	H9	人科
津野 慶浩	S36	商
当麻 照夫	S45	理工

■住所等の変更のご連絡を

住所 電話番号 勤務先等の変更がありましたら事務局までご連絡を。

当麻 彰子	S48	教育
中村 真弓	S59	文
村山 政利	S46	商
森川 節子	S55	文
横尾 正宏	S60	理工
吉村 公子	S57	文
渡辺 雅行	S49	文

事務局
東村山市恩多町52427
電話(394)6951
小 亀 輝 雄

失望した情報公開条例

吉次 番場

98ホームカミングデー校友大会(卒業50年)に「無事」出席出来たことが昨年一番の収穫だった。十月、大腸ポリプ発見と痔の手術後で方一せをしたまま出席したからだ。この日の様子でも書こうかと思ってい

とを目的の稲門会の皆さんは、どう思うことやら。私はこのことを書くだけでも少しはストレス解消になった気がするのですが。

こんな私でも

村山 政利

息子が野球をやっていた関係で、小学四年から中学三年まで追っ掛けや世話で休日を楽しんで過してしま

したが、中学三年の野球部総会が終

わった途端の十月、仙台への単身赴

任の辞令を貰った。会社が「単身」と

付けた訳でもないのに家族は当たり前

のように単身と決めつけ私を送り出

した。仙台の三年半は楽しい生活で

したがたまに帰ってくる土日は息子の

心のふるさと

高木 舞 (H10 二政経)

私は学生時代応援部のチアリーダーだった。神宮球場の学生席でWASEDAのロゴの入ったコスチュー

ムを着、勝つていようと、負けていようと精一杯の応援をした。早稲田が好きだからこそ4年間も続けられたが、特別の愛着心があったとも思えない。応援をリードする cheer leadingで学生席を盛り上げ、野球部を少しでも元気づけようとした。

早稲田大学校歌の中で私が取り分け好きなのが三番。歌詞の冒頭に、あれ見よ彼処の常盤の森は心のふるさと我らが母校 とある。先日、初めて会に出席したが卒業後どれ程、時が経つとも「心のふるさと」を実感できる場、それが稲門会だとい

うのが私の実感だ。

「私は早稲田が好きだ、早稲田万歳」などと、なんのてらいもなく言える人がいるんだろうか、赤の他人だと思っていた人が早稲田出身と知ると親近感さえも覚える。愛着心と、こんなものかもしれぬ。

奇観放言

(マージャン雀)



え！まさか！某月某日、麻雀大会会場に衝撃が走った。茫然と我を失う態がアツチコッチに見られる。又あの三宅さんが優勝だって、ヤケ酒をあおる者、柱の影で悲嘆にくれる者ヤツアタリする者、いずれも自分の腕のなさ、未熟さを棚に上げての面々だ。その中で、静観悠然と宿敵に拍手を惜しまぬ大人物が久世副会長。心中の苦渋を秘め、顔で笑えるその仕草。まあどうぞ、お二人で上下のトップ争いをお続け下さい。

編集後記

世に「三号雑誌」と云う言葉がある。創刊しても半年、一年で廃刊に追い込まれたり、本当に三回目で止めてしまう雑誌のことだ。こういう雑誌は本屋サンでは一人前に扱ってもらえないし、広告を出す会社もしばらく様子を見てといてよく断られる。会報もやつと三号、いよいよ正念場。会員から見放されず、一人よがりに入らぬ工夫と配慮を忘れてはならない。会員が参加し、会員が主役の会報、これが編集のモットーだ。号数は重ねても内容が三号雑誌では許されぬ。身の締まる一瞬だ。